

令和 6 年 6 月 2 7 日

令和 5 年度 特別の教育課程の実施状況等について

大分県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
豊後高田市立香々地中学校 (外 2 校)	豊後高田市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
豊後高田市立香々地中学校	https://tyu.oita-ed.jp/takada/kakazi/keiei/20904/
豊後高田市立香々地小学校	https://syou.oita-ed.jp/takada/kakazi/
豊後高田市立三浦小学校	https://syou.oita-ed.jp/takada/miura/keiei/20645/

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
豊後高田市立 香々地中学校	https://tyu.oita-ed.jp/takada/kakazi/keiei/21032/	https://tyu.oita-ed.jp/takada/kakazi/keiei/21032/
豊後高田市立 香々地小学校	https://syou.oita-ed.jp/takada/kakazi/	https://syou.oita-ed.jp/takada/kakazi/
豊後高田市立 三浦小学校	https://syou.oita-ed.jp/takada/miura/keiei/20751/	https://syou.oita-ed.jp/takada/miura/keiei/20751/

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

本特例を実施している小学校においては、「話す（やりとり）」活動を中心とし、中学年では「話す（やりとり）」活動に「話す（発表）」活動を加え、さらに「書く」活動を取り入れ、高学年からは「書く」活動を発展的に取り組んでいる。中学校においては、年間140時間の「英語科」の授業に加え、35時間の「英語表現」の授業において、小学校での英語活動を発展させ、より表現力を高めていくための学習を行っている。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、グローバル化や情報化の急速な進展など、変化の激しい時代を生きる子どもたちに、自ら挑戦し、多様な価値観を持った人々と協働していくための生きる力を育成できるよう外国語教育を行うものである。平成21年から文部科学省「英語教育改善のための調査研究事業」の研究指定を受け、「主体的・対話的な英語学習を通じた児童・生徒のコミュニケーション能力の育成 ～9年間を見通した表現活動の工夫～」を研究テーマに掲げ、5領域の言語活動を発達段階に応じてバランスよく組み入れる表現活動に取り組んでいる。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例を実施している中学校においては、入学後の民間テストで3年連続全国平均正答率を上回る優れた効果が上がっていることが明らかとなっている。一方で令和5年度豊後高田市学力調査においては読む領域が全国平均を下回り、今後は英語を「読む力」の向上が必要である。

4. 課題の改善のための取組の方向性

3(2)に示すような課題を踏まえて、「読む力」を小学校から中学校まで段階的に高める指導を行っていく。小学校中学年では、「聞くこと」「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」の指導を行う。中学校においては、「読むこと」を中心に、読んだことをもとにした書く活動、話す活動といった2技能統合型の活動を重点的に行う。また小中学校で共通して取り組むのは目的や場面、状況を設定した言語活動を通して豊かな表現活動の場を充実させていくことである。一方家庭においては「音読練習」に取り組ませる。この家庭学習の取組は、年度当初に本特例を実施する小中において、同じ課題認識に基づいた共通の取組であることを保護者に説明し協力を依頼する。各家庭において保護者が音読を聞き「音読カード」にチェックを入れ、励ましの声掛けを継続して行う。これらの取組を通して、本特例の取組を学校のみならず保護者とも協働し「読む力」の向上を目指していく。